

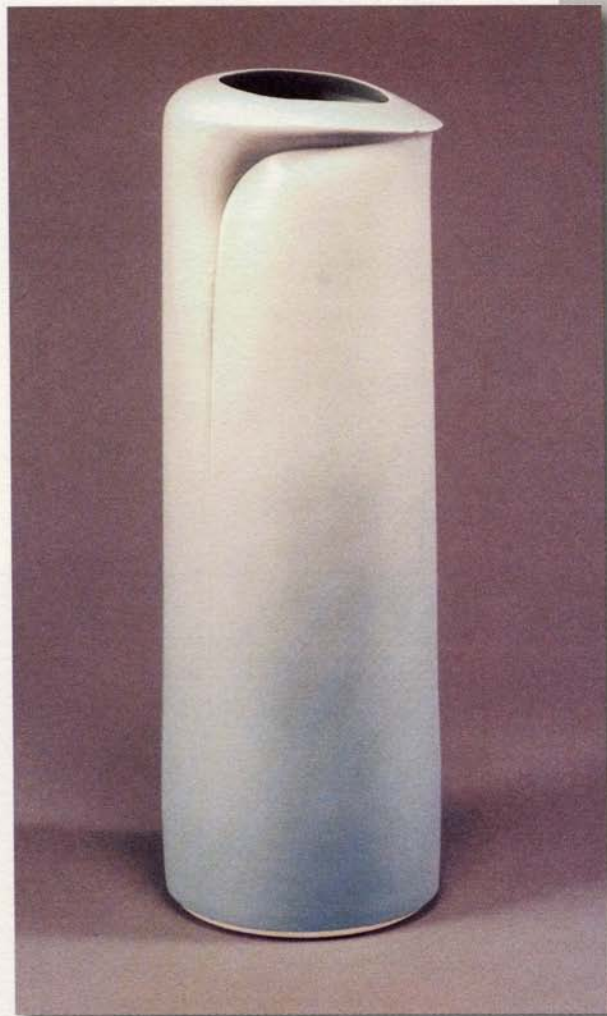
待田 和宏

第6回生

点滴穿石

Profile

大阪芸術大学工芸学科陶芸専攻卒業
その後、楠部彌弐先生(文化勲章受章・日本芸術院
会員)に内弟子として師事。彫刻の森美術館大賞、
日展特選、上野の森美術館賞など数多く受賞。
現在、日展会友、日本新工芸家連盟評議員。



■ 撓 屈「遼Ⅱ」

はるか遠い過去から現在、未来へと万物は流転し奏で続けている中太古の色(饒玉=じょうぎょく)に魅せられ追い求めている。

素人が陶芸を志す

私は、幼い頃から絵を描くことが好きで、いつしか立体的なものにも興味を引かれた。高校卒業後の進路を決める時、芸術分野を志望、当時の担任からの勧めもあり、芸術の道に進学した。陶芸専攻の学生は20名ほどだったが、そのほとんどが陶芸関係者で占められていた。したがって、毎日その分野の知識を持った学生との戦いであった。何の知識もない私、そんな劣等感が私を毎晩大学へと導いた。ある日、著名な先生から「お前は陶芸家の息子か」と、声をかけられ、それまでの劣等感は吹っ飛び、気をよくした私は、さらに大学にこもり、作品作りに没頭した。

チャンスを生かす

卒業作品に納得がいかず、教授に抵抗した。未完成のまま作品を提出したのだった。結果、留年した。しかし、1年後楠部彌弐(くすべやいち)先生と出会い、内弟子になることができた。そこでも色々苦労はあったが、そこでの本物との出会いが、今、私の大きな財産になっている。昭和54年(26歳)日展に初入選を果たし、昭和57年に独立をした。

信念と継続

師匠の「彩埴」という技法を継承し、私は「彩刻」と名づけ作品を制作している。「点滴石をも穿つ(わずかな力の積み重ねで大きなことを達成する)」を座右の銘として今後も倦(う)まずたゆまず、地道に創作活動が続けて行きたい、と考えている。

✧ 工房拝見

関宏藏窯(こうぞうがま)。安城市の自宅に本格的な工房ガス窯を持つ。

